

さぼサポ

平成 29 年 3 月 31 発行

札幌の障がい者
就労支援の最前線を
お伝えする

札幌市自立支援協議会就労支援推進部会の活動について

就労支援推進部会には**研修企画、広報、事業提案**の3つのワーキングチームがあります。**研修企画チーム**は年間スケジュールや各種研修の企画・立案、運営、**広報チーム**では広報誌さぼサポの作成等による広報活動とその名の通りの活動を行っております。では**事業提案チーム**はどのような活動を行っているのでしょうか、なかなか聞く機会の無い活動内容について事業提案チームのメンバーからご紹介頂きたいと思います。

事業提案チームから

地域の就労支援に関する課題を共有し、解決に向けた施策等を札幌市に提言、協働する活動に取り組んでいます。これまでは、障がい者雇用企業への優先調達施策の検討、就労移行支援事業所・就労継続支援 A 型事業所の実態調査などを行ってきています。(A 型調査の結果は、自立支援協議会のホームページで閲覧可能)今年度は、次期「さっぽろ障がい者プラン」に適正な目標値が盛り込まれるよう、また事業所指定のあり方等に関して提案することを目標に、就労系サービスの利用実態(総利用定員：利用実績など)の把握や分析、情報収集した他都市での取り組み等も参考に、協議・検討を進めています。



年間活動日程(平成 28 年度)

- 4月28日(金) 定例会
- 8月5日(金) 障がい者就労支援員養成研修
～障がいのある方の就労支援の基礎を学ぶ～レベル2
- 10月7日(金) 企業向けセミナー
- 11月5日(土)・6日(日) JC-NET ジョブコーチセミナー in 札幌
- 11月25日(金) 大学・専門学校での発達障がいのある方の就労情報交換会
- 2月10日(金) さぼコン

今回のさぼサポのタイトル背景カラーは平成 28 年 3 月から統一された身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳カバーの色にあわせてみました。

広報チーム



02-F04-16-1898-28-2-1112

活動報告

障がい者就労支援員養成研修

平成 28 年 8 月 5 日(金)、札幌市役所にて札幌市自立支援協議会 就労支援推進部会主催「障がい者就労支援員養成研修 - 障がいのある方の就労支援の基礎を学ぶ - レベル 2」が開催され、昨年度開催された「レベル 1」研修の受講者のうち、35 名が参加しました。前半はグループワークにてレベル 1 研修の重症心身障害児・者施設に訪問して体験した内容についてグループワークでの振り返りを行いました。後半は社会福祉法人札幌療育会ノビロ学園遠藤光博施設長より「重度身体障害者施設の実態」、札幌弁護士会高齢者・障害者支援委員会に所属されている水沼功弁護士より「虐待防止法、差別解消法」についての講義後、レベル 1 でお招きした講師の方々と「障がいのある方の支援について考える」をテーマとしたシンポジウムを行いました。今回の研修のなかでそれぞれの体験の共有や改めて障がいのある方の支援の基本について考えることが出来る機会となりました。(上村)

JC-NET ジョブコーチセミナー in 札幌

平成 28 年 11 月 5 日(土)・6 日(日)の 2 日間「JC-NET ジョブコーチセミナー in 札幌」を開催しました。初日は地方独自の企画で、厚生労働省の就労支援専門官 香月敬氏に「障害福祉施策における 就労支援の今後の方向性」というテーマで講演をしていただきました。関心高い内容で、フロアからの質問も多かったです。本研修は NPO 法人ジョブコーチ・ネットワークの協力のもと、ジョブコーチの支援プロセスを学ぶ「基礎講座」と演習形式の「実践講座」というプログラムになっています。「実践講座」は「企業との交渉」「教える技術」という演習に取り組み、より実践力を高めることを目的としています。受講生の方はいつも以上に緊張し、自分に向きあうことも多かったのではないのでしょうか。主催者の一人として、障がいのある方が一人でも就職し、働き続けることができるように、これからも地域の方々と一緒に頑張っていけたらと思います。(大野)

発達障がいのある方の就労情報交換会

平成 28 年 11 月 25 日(金)札幌市役所にて『大学・専門学校での発達障がいのある方の就労情報交換会』を自立支援協議会就労支援推進部会と札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるの共催で開催しました。7 つの大学と 5 つの専門学校から 21 名の参加をいただきました。おがるから「発達障がいについて」、重泉部会長から「福祉制度について」の話をしていただき、後半はグループごとで情報交換をしました。どこのグループも時間いっぱいまでもりあがっていたようで、学生さんの就労支援の課題が多くあること、そして少しずつ整理も進んできたと思います。お手伝いに来ていただいた皆様、ありがとうございました。(西尾)



ジョブロジック新さっぽろは、食品工場の就労や記帳代行業務等を通し、「健全な自立生活の獲得」と「社会経済活動への参加」を促進します。

仕事内容

- 施設外就労（野菜の1次加工の工場）
- 記帳代行業務等の施設内作業

定員

20名



スタッフ

5名 精神保健福祉士・社会福祉士1名 精神保健福祉士1名
介護福祉士・社会福祉士1名 支援員2名

メッセージ

質の高い継続的な就労に向けて、利用者様の様々なニーズに個別対応しつつ、企業様のニーズとのマッチングも行い、共にwin-winの関係性を築けるよう、配慮しながら支援をしております。

取材を通して

今回就労継続支援A型事業所を見学させていただくこと自体初めてだったのですが、施設長の山田さんからサービス内容や活動内容について終始丁寧にお話していただき、今まで知らなかったこともお聞きすることができて大変勉強になりました。利用者に「継続して働く力」を身に付けてもらうためのサービスや配慮が至る所にあり、企業から求められる高い水準の難しい作業もそれぞれが責任感を持ちながら取り組んでいる様子が見られました。



お役立情報 ～合理的配慮のヒント～



http://www.jeed.or.jp/disability/data/handbook/manual/emp_ls_comic.html
<https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/hattatu/hattatu.html#toranomaki>

最近話題の「合理的配慮」。障がいのある方を採用した企業の方から「障がいのある人への接し方がわからない」、「『合理的配慮』ってどんなことをすればいいの」という声を聞きます。そんなとき障害者職業センターと札幌市で発行しているこんな冊子があるのをご存知ですか？障がい別に「こんなときどうする」がわかりやすくイラスト入りで示されています。在庫がない冊子もあるようですが、いずれもホームページからダウンロードできます。企業さんだけでなく、障がいのある方に就労前に読んでもらい、就職後のイメージづくりに役立っている支援事業所もあるそうですよ。参考にしてみてくださいいかがですか。



白石区複合庁舎に「元気カフェブラン」が誕生！

平成28年11月7日(月)に白石区複合庁舎のオープンに合わせて、「元気カフェブラン」が誕生しました。元気カフェは、多くの市民が訪れる空間を生かし、障がいのある方が接客等を通じてさまざまな方と交流することで、障がいに対する市民の理解促進につなげていくことや、障がいのある方が生き生きと働く姿を見てもらうことにより、民間企業における障がい者雇用の促進を図ることを目的とするものです。元気カフェの設置は、社会福祉総合センター、市本庁舎、中央図書館に続く4店舗目となります。店名の「ブラン」はフランス語で白の意味。真っ白なキャンパスにお客様やスタッフが色を加え描いていく、未完成の絵のような「これから一緒に作っていくお店」という意味合いを含めています。また、言葉から白石区にちなんだカラーイメージとブランク（休養）の連想を意識しています。メニューには「白石区民のホワイトコーヒー」など白石区にちなんだ商品や地元の飲食店等と連携して開発したメニューが並び、「農場のウィンナードッグ」など軽食メニューもあります。また、カフェで使用するテーブルや椅子等は区内の障害福祉サービス事業所で働く障がいのある方が製作に関わっています。白石区複合庁舎へ会議や手続等でお越しになる際は、ぜひ元気カフェブランへお立ち寄りください！

